

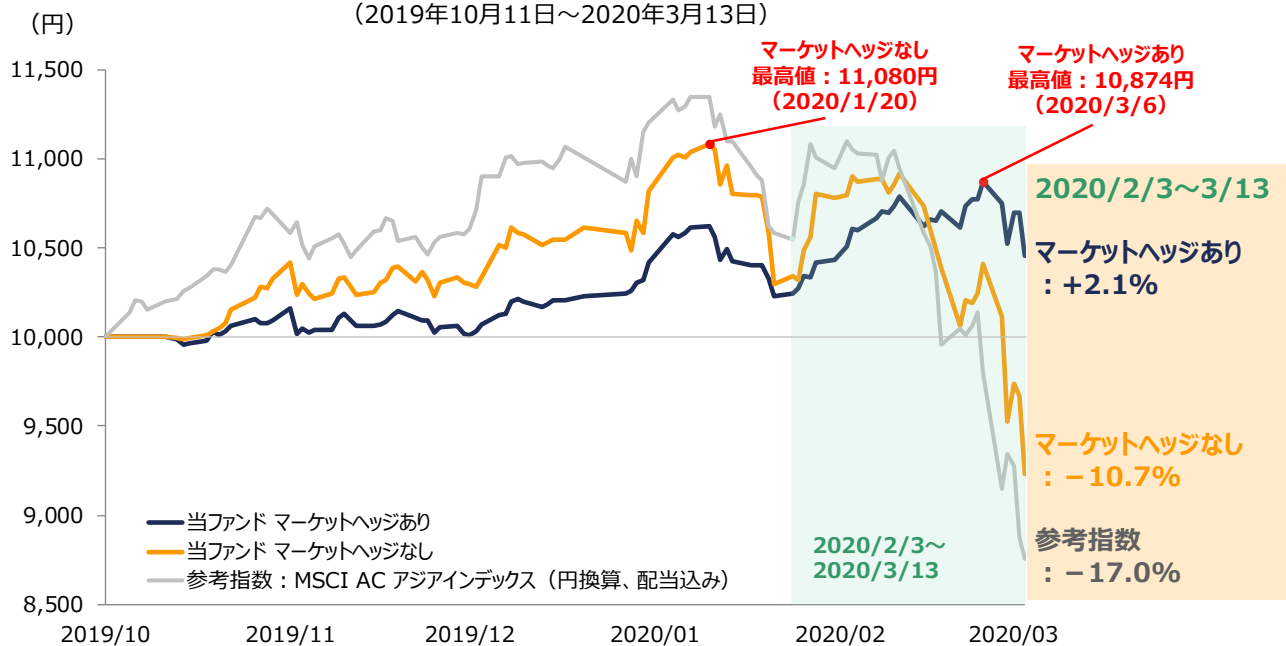
スパークス・ベスト・ピック・ファンドⅡ（日本・アジア） **マーケットヘッジあり/マーケットヘッジなし** **コロナショック急落でも運用力を発揮するパフォーマンス**

当ファンドは2019年10月に設定され、2020年3月13日現在、マーケットヘッジあり基準価額は10,457円、マーケットヘッジなし基準価額は9,229円となっております。

昨今の新型コロナウイルス問題で株式市場は急落しておりますが、下記のように、マーケットヘッジありは市場変動に左右されない値動きとなっており、マーケットヘッジなしは市場平均より下落を免れることができております。

当ファンドと参考指数（MSCI AC アジアインデックス（円換算、配当込み））の 基準価額推移比較

（2019年10月11日～2020年3月13日）



（2020年3月13日時点）

	基準価額	純資産総額	運用期間
マーケットヘッジあり	10,457 円	3.42 億円	5カ月
マーケットヘッジなし	9,229 円	1.37 億円	5カ月

※ 基準価額は信託報酬控除後です。

※ 参考指数（MSCI AC アジアインデックス（円換算、配当込み））は当ファンドのベンチマークではありません。

※ MSCI AC アジアインデックス（円換算、配当込み）は、MSCI Inc.が発表しているMSCI AC Asia Index（米ドルベース）をもとに委託会社が円換算したものです。MSCI AC Asia Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。MSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。MSCI Inc.は、当ファンドの運用成果等に関して一切責任を負うものではありません。

※ 2019年10月11日を10,000として指数化しています。

出所：FactSet Pacific Inc.、スパークス・アセット・マネジメント（2020年3月13日現在）

当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社（以下当社）が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。お申込みにあたっては、販売会社からお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。当資料は目的によらず、当社の許可なく複製・複写することを禁じます。

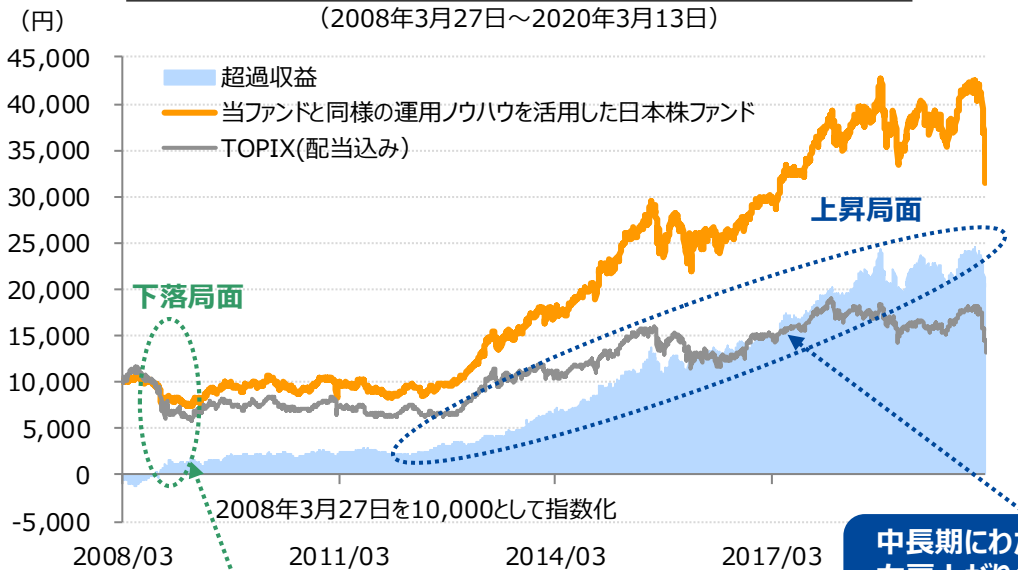
マーケットヘッジあり 市場変動に左右されず運用力を発揮するスパークス

当ファンドマーケットヘッジありは、株式市場のリスクを低減することで、独自の運用力が生み出す超過収益を安定的に獲得することを目指します。

安定的に超過収益を生み出すためには、株式市場の上昇、下落いずれの局面でも、市場全体を上回る運用成果を上げる必要があります。日本株のみを対象に当ファンドと同様の運用ノウハウを活用したファンドは、過去株式市場の上昇局面でも下落局面でも優れた運用実績を上げて参りました。スパークスが長年培ってきた運用ノウハウを活用しつつ、投資対象を「日本+アジア」に拡大させ、より多くの投資機会を取り込んで超過収益の獲得を目指すのが、当ファンドマーケットヘッジありの魅力です。

当ファンドと同様の運用ノウハウを活用した日本株ファンドは、過去上昇局面でも下落局面でも超過収益を獲得

当ファンドと同様の運用ノウハウを活用した日本株ファンドのパフォーマンス
(2008年3月27日～2020年3月13日)



100年に1度と言われた
リーマンショック時にも
超過収益を獲得！

リーマンショック時 最大下落率
(2008/8/29～2009/3/12)

当ファンドと同様の
運用ノウハウを : -29.4% (2008/10/27)
活用したファンド
TOPIX(配当込み) : -43.6% (2009/3/12)

中長期にわたってきれいな
右肩上がりの市場平均を
上回る超過収益！

(2020年3月13日時点)

	同様の運用ノウハウを 活用した 日本株ファンド	TOPIX (配当込み)	超過収益
設定来	213.98%	31.35%	182.63%
年率リターン	9.84%	2.26%	7.57%
年率リスク	19.18%	21.77%	-2.59%

※ 記載のデータは、当ファンドと同様の運用ノウハウを活用したファンドの過去の実績をもとに算出したものであり、当ファンドの実績ではありません。また、将来の運用成果等を示唆、保証するものではありません。

※ 参考指数 (TOPIX (配当込み)) は当ファンドのベンチマークではありません。

※ 年率リターンは計算期間 (2008年3月27日～2020年3月13日) におけるリターンを年率換算しています。年率リスクも同計算期間における日次リターンの標準偏差 (年率換算) です。

※ 基準価額は信託報酬控除後であり、分配金を非課税で再投資したものと計算しております。

出所: FactSet Pacific Inc.、スパークス・アセット・マネジメント (2020年3月13日現在)

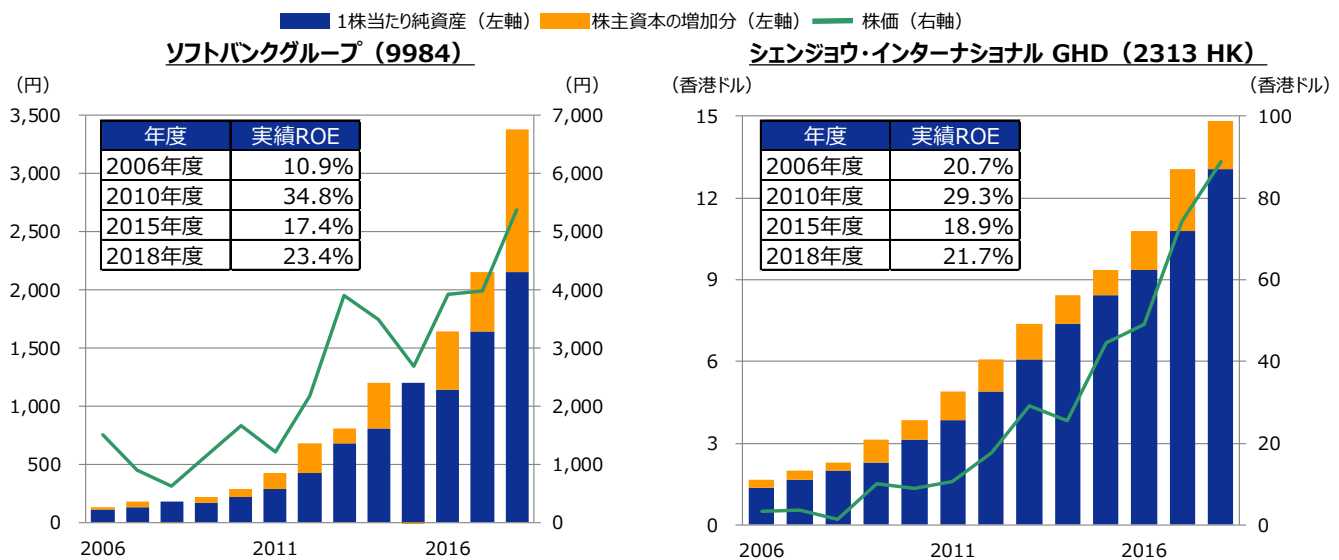
当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社 (以下当社) が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。お申込みにあたっては、販売会社からお渡しする投資信託説明書 (交付目論見書) の内容を必ずご確認ください。当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。当資料の正確性及び完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。当資料は目的によらず、当社の許可なく複製・複写することを禁じます。

マーケットヘッジなし 高ROE銘柄から期待される優れたパフォーマンス

魅力的なビジネスとは、長期的・持続的に成長し、株主資本を使って超過利潤を創出するビジネスです。これを評価する一つの指標としてROE（株主資本利益率）が挙げられます。ROEは株主資本に対する利益の割合、つまり利益の積み上がるスピードを表します。

ROEが長期で安定している企業は、株主資本が積み上がると共に株価が上昇する傾向があります。

株価と1株当たり純資産額の推移
(2006年度～2018年度（株価は各年度末値）)



当ファンド上位10銘柄の組入比率と実績ROE
(2020年2月末)

銘柄名	マーケットヘッジあり		マーケットヘッジなし		実績ROE
	順位	組入比率	順位	組入比率	
ニッポン・インドサリ・コーピンド	1	5.3%	1	6.5%	10.2%
ウーシー・アップテック	2	4.4%	2	5.1%	18.8%
アリババ・グループ・ホールディング	3	3.9%	4	4.6%	20.4%
ソニー	4	3.6%	3	4.9%	27.3%
ウーシー・バイオロジクス	5	3.3%	7	3.5%	10.5%
ソフトバンクグループ	6	3.2%	6	3.7%	23.4%
リクルートホールディングス	7	2.9%	10	3.2%	19.3%
メイトゥアン・ディエンビン	8	2.8%	9	3.3%	NA
日本電産	9	2.8%	—	2.8%	11.5%
武田薬品工業	10	2.7%	8	3.3%	3.0%
花王	—	2.2%	5	4.0%	17.6%

当ファンド組入銘柄平均実績ROE
(※ 2020年2月末現在組入37銘柄中、実績値の算出できない2銘柄を除く加重平均値)

直近実績ROE	
マーケットヘッジあり	17.1%
マーケットヘッジなし	17.2%

上位10銘柄は長期で安定した高ROE企業！

※ 実績ROEは各種資料よりスパークス・アセット・マネジメントが算出しています。
※ 上図において、当期純損失（株主資本の減少分）は表示していません。
※ 上記は当ファンドの理解を深めていただくためのご参考資料であり、特定の有価証券等を推奨しているものではありません。また、過去の実績等は将来を保証、示唆するものではありません。

出所： FactSet Pacific Inc.、スパークス・アセット・マネジメント（2020年3月13日現在）

当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社（以下当社）が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。お申込みにあたっては、販売会社からお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。当資料は目的によらず、当社の許可なく複製・複写することを禁じます。

新型コロナウイルス感染症の拡大についての見解

当ファンドのポートフォリオは、一時的な危機に陥った場合にも早い回復が期待できる企業に投資しています。

当ファンドのポートフォリオの約3割は、「中国における売上成長が本源的価値拡大のドライバとなっている企業（中国関連銘柄）」で占められています。率直に言えば、今後数週間から数ヶ月間の短期的には、これらの「中国関連銘柄」は、新型コロナウイルス感染症の影響が長引くとビジネスの成長鈍化の可能性があります。

このような「弱気シナリオ」においては、我々の投資する強力なリーダーシップと財務力を備えた企業こそが危機が収まった時にマイナス影響を最小限に抑え、競合他社優位に立つと考えています。

中国を唯一の収益源としている
わけではない日本企業

日本電産、ミスマグループ本社、
ロート製薬、花王 等

・過去の不況をうまく乗り越えた実績と
グローバルな収益構造を持つ
・優れたブランドイメージと「安全な品質」から
アジアの中間層の間で非常に人気がある
製品を有する

売上高のほぼ100%を中国に依存している
ものの新型コロナウイルスの影響が比較的
軽微であると考えられる企業

アリババ・グループ・ホールディングス（中国） 等

インターネット企業であるため「感染の拡大を
恐れる中国人消費者が、むしろネット上で
消費を増やすといった行動」が考えられる

本国でビジネス展開をしている企業

ニッポン・インドサリ・コーピンド（インドネシア） 等

本国でビジネス展開しているため、今回の
新型コロナウイルス感染症が世界的に流行す
ることがない限り、ほとんど影響を受けること
はないと考えられる

株式市場は長期では企業の実態価値が反映されますが、短期では一時的な業績悪化に関するニュースなどの影響を受け、予想もしない動きをすることが多々あります。

今回のリスク事象を米中貿易摩擦よりも持続性が低い「一時的なイベント」と私どもは考えており、当ファンドのポートフォリオを維持する方針です。「新型コロナウイルス感染症の拡大」は、当ファンドのポートフォリオが持つ「ビジネスの優位性」とは直接関係ないものと、私どもは考えます。

※ 上記は当ファンドの運用への理解を深めていただくためのご参考資料であり、特定の有価証券等を推奨しているものではありません。

※ 記載された意見や予測などについては、資料作成時点での見解を示すものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

出所： スパークス・アセット・マネジメント（2020年3月13日現在）

当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社（以下当社）が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。お申込みにあたっては、販売会社からお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写することを禁じます。

今後も高い株価上昇が期待できるアジア銘柄

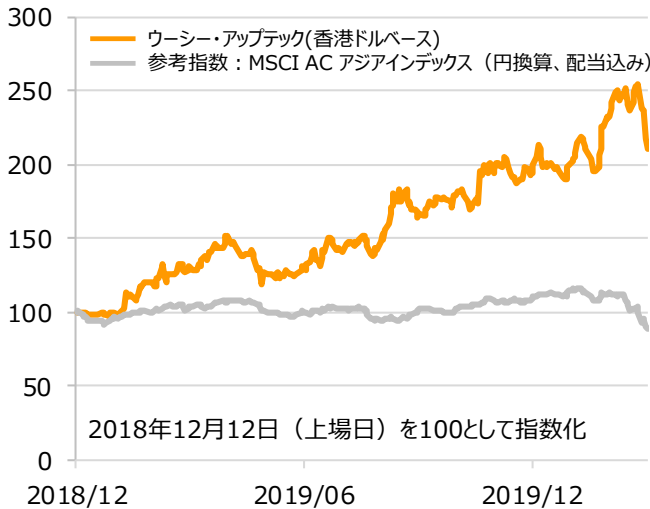
当ファンドで投資するウーシー・アップテック（2359 HK）、ウーシー・バイオロジクス（2269 HK）は同じグループが保有する兄弟企業で、医薬品開発業務受託機関（CRO）の中国業界トップです。医薬品業界では効率を高めコストを削減するため、研究開発サービスの一部を外部委託するという流れとなっており、参入障壁の高い同業界において、両社は高い優位性を持っているといえます。また、両社は製造施設や研究開発施設にも投資しており、両施設の稼働率が上昇した場合にも、利益率の拡大が見込まれます。

ウーシー・アップテック（2359 HK）

低分子医薬品についての開発受託機関
世界の上位20の製薬会社を含む
3,700以上のクライアントを持つ

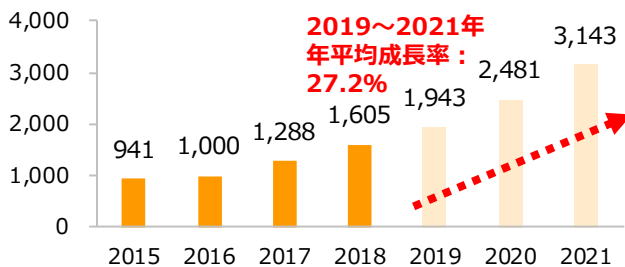
株価推移

（2018年12月12日-2020年3月13日）



同社の売上高（予想）と年平均成長率

（億円）（実績値：15～18年 予想値：19～21年）

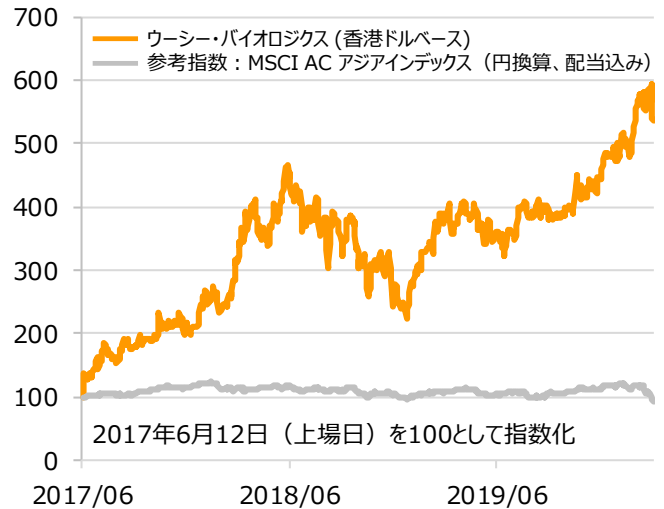


ウーシー・バイオロジクス（2269 HK）

バイオ医薬品についての開発受託機関
研究開発サービスからの安定的な収益に加え、
新薬開発が成功した際には追加収益が期待

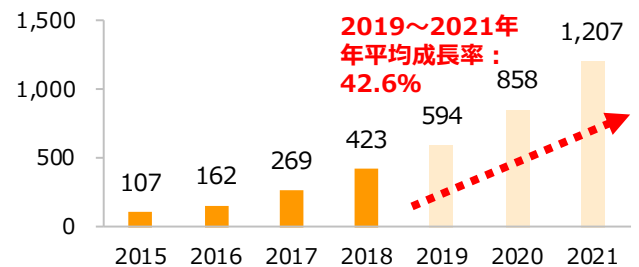
株価推移

（2017年6月12日-2020年3月13日）



同社の売上高（予想）と年平均成長率

（億円）（実績値：15～18年 予想値：19～21年）



※ 上記は当ファンドへの理解を深めていただくためのご参考資料であり、特定の有価証券等を推奨しているものではありません。また、過去の実績等は将来の結果を保証、示唆するものではありません。

※ 記載された意見や予測などについては、資料作成時点での見解を示すものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

※ 参考指数（MSCI AC アジアインデックス（円換算、配当込み））は当ファンドのベンチマークではありません。詳細についてはP1の注記をご覧ください。

※ 売上高予想値についてはFactSet Pacific Inc. のコンセンサス予想を使用しています。

出所： スパークス・アジア・インベストメント・アドバイザーズ・リミテッド、FactSet Pacific Inc. のデータをもとにスパークス・アセット・マネジメント作成（2020年3月13日現在）

当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社（以下当社）が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。お申込みにあたっては、販売会社からお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。当資料は目的によらず、当社の許可なく複製・複写することを禁じます。

相場に対する私どもが臨む姿勢

アクティブ運用を行う私どもは、長期的にプラスの絶対リターンを実現するための近道は、「**下げ相場で勝ち、上げ相場はそこそこ**」を実践することと考えております。

長期的（3～5年程度）な運用目標

- ① 信託報酬等控除後ベースでプラスの絶対リターンを実現
- ② パッシブファンド（市場全体の平均的な収益を獲得することを目的とし、十分に分散化されたポートフォリオを保有するタイプのファンド）の運用成績を上回る

短期的（1～3年程度）な運用目標



下げ相場

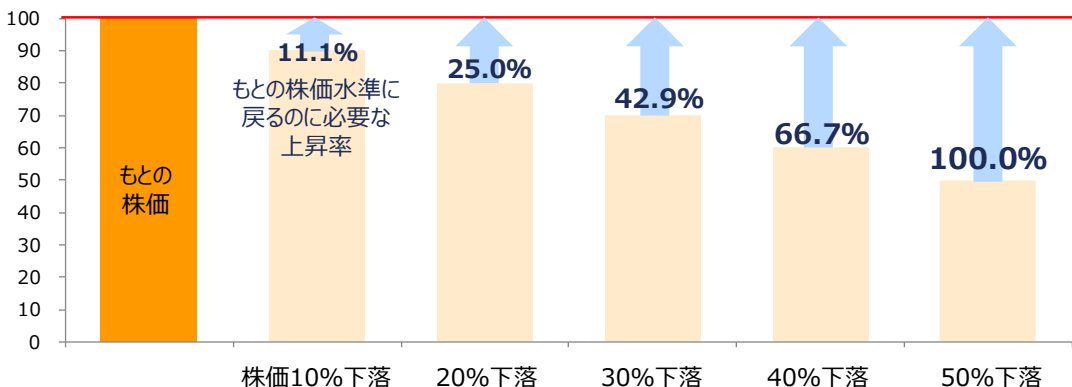
市場全体よりも損失を
最小限に留める



上げ相場

強気ムードに浮かれることなく、
「市場平均並みの成績を
確保できればよし」

⇒下落率が大いいと、もとの水準に戻るために大きな上昇率が必要になってしまうため



基準価額が半値になってしまったファンドはそこから2倍の上昇率が必要だが、
1割下落の場合は、約1割強の上昇率でもとの水準を回復できる

**天変地異や金融危機といった未曾有の事態に見舞われたとしても、
業績やビジネスモデルが構造的に悪化しにくいビジネスに投資しております**

※ 上記は当ファンドの運用への理解を深めていただくためのご参考資料です。記載された意見や予測などについては、資料作成時点での見解を示すものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

出所： スパークス・アセット・マネジメント（2020年3月13日現在）

当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社（以下当社）が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。お申込みにあたっては、販売会社からお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。当資料は目的によらず、当社の許可なく複製・複写することを禁じます。

ファンドの目的

「マーケットヘッジあり」

当ファンドは、主として投資信託証券への投資を通じて、日本を含むアジアの株式に実質的に投資するとともに、株価指数先物取引等を活用し、日本を含む投資対象国の株式市場の変動リスクの低減を図りつつ、投資信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。

「マーケットヘッジなし」

当ファンドは、主として投資信託証券への投資を通じて、日本を含むアジアの株式に実質的に投資し、投資信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。

ファンドの特色

当ファンドは、投資信託証券を通じて、ファンド・オブ・ファンズ形式で実質的な運用を行います。
なお、外国投資信託証券の組入れは原則として高位に保つことを基本とします。

1. 日本とアジアの株式の中から、『魅力的』と判断した銘柄に投資します。

- ◆『魅力的』な銘柄とは、高い技術力やブランド力があり、今後グローバルでの活躍が期待出来、成長していく日本とアジアの企業（新・国際優良企業）をいいます。
- ◆当ファンドは、「MSCI AC Asia Index（円ベース）＊」の採用国及び地域の株式を中心に実質的に投資します。ただし、当該指数への追従を意図した運用は行いません。当ファンドの主要投資対象国は日本、中国、香港、台湾、韓国、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、インド、インドネシアなどです。

※投資対象国の制度等により、上記投資対象国の株式へ投資ができない場合があります。

※日本やアジア地域に本社のある企業で日本やアジア地域以外の上場株式も投資対象に含まれます。

※全ての採用国及び地域に投資するとは限りません。また、主要投資対象国は今後変更される場合があります。

※株式のほか、株式に関連する資産として、投資信託証券、転換社債ならびに転換社債型新株予約権付社債、DR（預託証券）、新株引受権証券および新株予約権証券、ならびに株価もしくは株価指数に価格が連動する証券等に対して投資する場合があります。

＊「MSCI AC Asia Index（円ベース）」は、MSCI Inc.が発表しているMSCI AC Asia Index（米ドルベース）をもとに委託会社が円換算したものです。また、MSCI AC Asia Index に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。またMSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。MSCI Inc.は、当ファンドの運用成果等に関して一切責任を負うものではありません。

2. ベンチマークや業種にとらわれず、『厳選』した少数の投資銘柄群に集中的に投資を行うことを基本とします。

※当ファンドは、ベンチマーク等を意識せず、厳選した少数の投資銘柄群に絞り込んで集中投資することとしているため、個別銘柄への投資において、当ファンドの純資産総額に対して実質的に10%を超えて投資することが想定されています。そのため、集中投資を行った投資銘柄において経営破綻や経営・財務状況の悪化などが生じた場合には、大きな損失が発生することがあります。

3. 原則として短期的な銘柄の入れ替えは行わず、長期保有することを基本とします。

※実質的な外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。

当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社（以下当社）が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。お申込みにあたっては、販売会社からお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写することを禁じます。

ファンドの特色（続き）

4. 「マーケットヘッジあり」と「マーケットヘッジなし」の2つのファンドがあります。

「マーケットヘッジあり」

株式市場の変動リスクの低減を図るため、株価指数先物取引等を活用します。

「マーケットヘッジなし」

株式市場の変動リスクの低減を図るための株価指数先物取引等は、原則として行いません。

- ◆ ファンドのパフォーマンスに影響を与える要因は大きく3つ（運用固有の要因、その他の要因、株式市場要因）に分けられます。
- ◆ 「マーケットヘッジあり」では運用固有の要因とその他の要因、「マーケットヘッジなし」では3つの要因が主にパフォーマンスに影響を与えます。

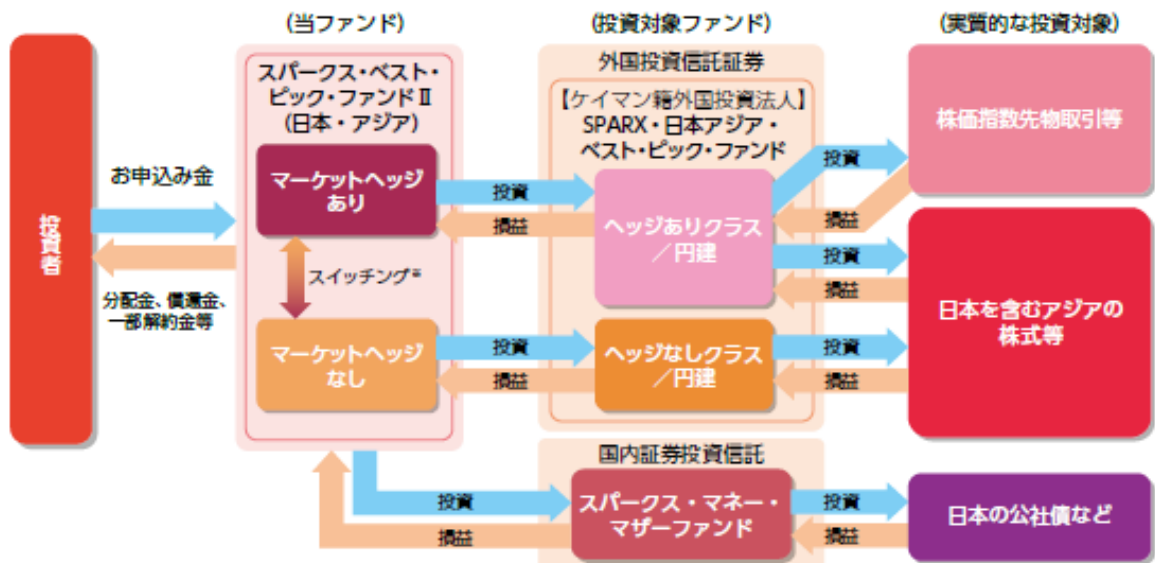
運用固有の要因	超過収益獲得のために運用上取るリスク（銘柄選択、為替、国、業種など）
その他の要因	運用上意図していないリスク、売建てヘッジで取り除ききれないリスク等
株式市場要因	株式市場の変動リスク

ファンドの資金動向や市場動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

ファンドの仕組み

当ファンドは、ファンド・オブ・ファンズ方式で運用を行います。

主として、投資対象ファンドである以下の投資信託証券への投資を通じて、実質的な運用を行います。



※販売会社によっては、「マーケットヘッジあり」と「マーケットヘッジなし」との間で、スイッチング（乗換え）を行うことができます。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社（以下当社）が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。お申込みにあたっては、販売会社からお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。当資料は目的によらず、当社の許可なく複製・複写することを禁じます。

投資対象とする投資信託証券の概要

1. 外国投資信託証券

「SPARX・日本アジア・ベスト・ピック・ファンド（ヘッジありクラス／円建）」

「SPARX・日本アジア・ベスト・ピック・ファンド（ヘッジなしクラス／円建）」

（注）各クラス固有の場合は、個別記載しております。それ以外は、各クラス共通事項です。

形態／表示通貨	ケイマン籍外国投資法人／円建
主な投資対象	<（ヘッジありクラス／円建）> 日本を含むアジア企業の株式または日本を含むアジア地域の金融商品取引所に上場している株式（これに準ずるものを含みます。）を主要投資対象とするともに、当クラスにおいては日本を含む投資対象国の株式市場の変動リスクの低減を図ることを目的として、株価指数先物取引等を活用します。 <（ヘッジなしクラス／円建）> 日本を含むアジア企業の株式または日本を含むアジア地域の金融商品取引所に上場している株式（これに準ずるものを含みます。）を主要投資対象とします。
投資方針	<（ヘッジありクラス／円建）> ボトムアップ・リサーチによる個別銘柄調査に基づき、魅力的なビジネスと卓越した経営陣を併せ持つ企業で、企業価値に対して割安と考えられる銘柄の中から厳選して集中的に投資を行うとともに、当クラスにおいては日本を含む投資対象国の株式市場の変動リスクの低減を図ることを目的として、株価指数先物取引等を活用します。 <（ヘッジなしクラス／円建）> ボトムアップ・リサーチによる個別銘柄調査に基づき、魅力的なビジネスと卓越した経営陣を併せ持つ企業で、企業価値に対して割安と考えられる銘柄の中から厳選して集中的に投資を行います。
主な投資制限	一発行体への投資割合は、原則として純資産総額の35%以内とします。
為替ヘッジ	外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。
運用報酬等	純資産総額に対して年率0.80%程度。 その他、受託会社報酬、保管会社報酬などの費用がかかります。
管理運用会社	スパークス・アジア・キャピタル・マネジメント・リミテッド
投資助言会社	スパークス・アジア・インベストメント・アドバイザーズ・リミテッド

スパークス・アジア・キャピタル・マネジメント・リミテッド（投資対象ファンドである外国投資信託証券の管理運用会社）

◆ SPARX グループ傘下のファンド運営子会社であり、投資対象ファンドである外国投資信託証券の運営管理を担当しています。

スパークス・アジア・インベストメント・アドバイザーズ・リミテッド（投資対象ファンドである外国投資信託証券の投資助言会社）

◆ SPARX グループの一員であり、アジア地域への投資やオルタナティブ投資を強みとする投資助言会社です。

◆ スパークス・アジア・キャピタル・マネジメント・リミテッドに対して投資助言を行っています。

◆ 香港に拠点を構え、多数の投資プロフェッショナルを有しています。

2. 国内証券投資信託

「スパークス・マネー・マザーファンド」

形態／表示通貨	親投資信託／円建
基本方針	この投資信託は、信託財産の着実な成長をはかることを目標として安定運用を行います。
主な投資対象	わが国の公社債を主要投資対象とします。
投資方針	主としてわが国の公社債に投資を行い利息等収益の確保をはかります。
主な投資制限	・株式（新株予約権証券を含みます。）への投資は、信託財産の純資産総額の30%以下とします。 ・外貨建資産への投資は行いません。
信託報酬	該当事項はありません。
委託会社	スパークス・アセット・マネジメント株式会社

当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社（以下当社）が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。お申込みにあたっては、販売会社からお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写することを禁じます。

投資リスク

基準価額の変動要因

- 「マーケットヘッジあり」においては、主として投資信託証券への投資等を通じて、内外の株式などの値動きのある有価証券に投資するとともに、株価指数先物取引等を活用しますので、ファンドの基準価額は変動します。また、外貨建資産に投資しますので為替の変動により、基準価額は変動します。なお、「マーケットヘッジあり」固有の投資リスクとして株式ヘッジに伴うリスクもあります。
 - 「マーケットヘッジなし」においては、主として投資信託証券への投資等を通じて、内外の株式などの値動きのある有価証券に投資しますので、ファンドの基準価額は変動します。また、外貨建資産に投資しますので為替の変動により、基準価額は変動します。
 - 従って、投資者の皆さまの投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金と異なります。**
- (注) 各ファンド固有の場合は、個別記載しております。それ以外は、各ファンド共通事項です。

価格変動リスク

当ファンドは、実質的に内外の株式などを主要な投資対象としますので、当ファンドへの投資には、株式投資にかかる価格変動等の様々なリスクが伴うことになります。当ファンドに組入れられる株式の価格は短期的または長期的に下落していく可能性があり、これらの価格変動または流動性に予想外の変動があった場合、重大な損失が生じる場合があります。

カントリーリスク

一般的に海外の株式などに投資する場合、投資対象国・地域の政治、経済、社会情勢の変化等により金融・証券市場が混乱して株式などの価格が大きく変動する可能性があり、基準価額が大きく下落する要因となります。また、新興国市場への投資は先進国への投資と比較して価格変動、流動性、為替変動、政治要因等のリスクが高いと考えられています。また、情報の開示などの基準が先進国とは異なることから投資判断に際して正確な情報を十分に確保できない場合があります。国有化、資産の収用、あるいは通貨の回金の制限等により、かかる国への投資はリスクを増大させることがあり、その結果、重大な損失が生じる場合があります。

為替変動リスク

当ファンドは、原則として為替ヘッジを行いませんので、投資対象国の通貨と日本円との間の為替変動の影響を受けます。外国為替相場の変動により投資を行う投資対象国の通貨建て資産の価格が変動し、これにより基準価額が変動し、損失を生じる場合があります。

集中投資のリスク

当ファンドは、分散投資を行う一般的な投資信託とは異なり、銘柄を絞り込んだ運用を行うため、市場動向にかかわらず基準価額の変動は非常に大きな可能性があります。

「マーケットヘッジあり」固有の投資リスク（株式ヘッジに伴うリスク）

「マーケットヘッジあり」においては、実質的に日本を含む投資対象国の株式市場の変動リスクの低減を図ることを目的として、株価指数先物取引等の売建てを行いますので、株式ヘッジに伴うリスクがあります。そのため、日本を含む投資対象国の株式市場全体が上昇しても必ずしも基準価額が上昇するわけではありません。また、完全に株式市場全体の動きの影響を排除できるものではありません。組入投資信託証券の株式ポートフォリオの価格上昇の寄与が株価指数先物の価格上昇の寄与より小さい場合、または、組入投資信託証券の株式ポートフォリオの価格下落の影響が株価指数先物の価格下落の影響より大きい場合等には、基準価額が下落する可能性があります。組入投資信託証券の株式ポートフォリオの価格が下落し、株価指数先物の価格が上昇する場合、基準価額の下落幅が拡大することがあります。

信用リスク

組入れられる株式や債券等の有価証券やコマーシャル・ペーパー等短期金融商品は、発行体に債務不履行が発生あるいは懸念される場合には価格が下がる場合があります。また、投資資金を回収できなくなることがあります。なお、株式等の値動きに連動する債券については、債券の発行者に起因するリスクのほか、対象とする企業の株価の変動の影響を受けますので、対象とする企業が倒産や大幅な業績悪化に陥った場合には、当該債券の価値が大きく下落し、基準価額が大きく下落する要因となります。当ファンドは、ベンチマーク等を意識せず、弊社独自の調査活動を通じて厳選した少数の投資銘柄群に絞り込んで集中投資することとしているため、個別銘柄への投資において、当ファンドの純資産総額に対して実質的に10%を超えて集中投資することが想定されています。そのため、集中投資を行った投資銘柄において経営破綻や経営・財務状況の悪化などが生じた場合には、大きな損失が発生することがあります。

その他の留意事項

●システムリスク・市場リスクなどに関する事項

証券市場および外国為替市場は、世界的な経済事情の急変またはその国における天災地変、政変、経済事情の変化、政策の変更もしくはコンピューター・ネットワーク関係の不慮の出来事などの諸事情により閉鎖されることがあります。このような場合、一時的に換金等ができないこともあります。また、これらにより、一時的にファンドの運用方針に基づく運用ができなくなるリスクなどもあります。

※基準価額の変動要因（投資リスク）は、上記に限定されるものではありません。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

その他の留意点

- ・当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
 - ・収益分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり幅が小さかった場合も同様です。
 - ・収益分配の支払いは、信託財産から行われます。従って純資産総額の減少、基準価額の下落要因となります。
- ※詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社（以下当社）が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。お申込みにあたっては、販売会社からお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。当資料は目的によらず、当社の許可なく複製・複写することを禁じます。

お申込メモ（お申込の際には投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。）

ファンド名	スパークス・ベスト・ピック・ファンドⅡ（日本・アジア）	
	マーケットヘッジあり	マーケットヘッジなし
商品部類	追加型投信／内外／株式／特殊型（絶対収益追求型）	追加型投信／内外／株式
信託期間	2019年10月15日から2029年8月27日まで	
決算日	毎年2月27日および8月27日（休日の場合は翌営業日）	
収益分配	原則として毎決算時にファンドの基準価額水準、市況動向等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合等は、分配を行わないこともあります。	
お申込単位	販売会社が定める単位	
お申込価額	お申込受付日の翌営業日の基準価額	
解約価額	解約請求受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を差し引いた価額	
解約代金の受渡日	解約請求受付日から起算して、原則として7営業日目からお支払いします。	
お申込・ご解約の受付不可日	販売会社の営業日であっても、以下に該当する日は、お申込・ご解約（スイッチングを含みます。）の受付は行いません。 ① 香港の金融商品取引所の休業日および銀行休業日等 ② 上記①のほか、一部解約金の支払い等に支障を来すおそれがあるとして委託会社が定める日 ※ ただし、当ファンドの運営および受益者に与える影響を考慮して受付を行う場合があります。 ※ 詳しくは販売会社までお問い合わせください。	
スイッチング（乗換え）	販売会社によっては、「マーケットヘッジあり」と「マーケットヘッジなし」との間で、スイッチング（乗換え）ができます。※詳しくは販売会社までお問い合わせください。	

お客様にご負担いただく手数料等について

下記手数料等の合計額については、お申込金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することができません。

【お申込時】

■お申込手数料：お申込受付日の翌営業日の基準価額に**3.3%（税抜3.0%）**を上限として販売会社が定める手数料率を乗じて得た額

【ご解約時】

■信託財産留保額：解約請求受付日の翌営業日の基準価額に対して**0.15%**の率を乗じて得た額

■解約手数料：なし

【保有期間中】（信託財産から間接的にご負担いただきます）

■信託報酬：純資産総額に対して**年率0.968%（税抜0.88%）**

■「SPARX・日本アジア・ベスト・ピック・ファンド」における運用報酬：

純資産総額に対して年率0.80%程度。その他、受託会社報酬、保管会社報酬などの費用がかかります。

■実質的な負担：**年率1.768%程度（税込）**

■その他の費用等

(1) 監査報酬、投資信託説明書（目論見書）や運用報告書等の作成費用などの諸費用（純資産総額に対して上限年率0.11%（税抜0.10%））

(2) 投資対象ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、外貨建資産の保管費用等を信託財産でご負担いただきます。投資対象ファンドにおいては上記の他、受託会社報酬、保管会社報酬などの費用がかかります。これらの費用は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことができません。

【お問い合わせ先】スパークス・アセット・マネジメント株式会社

ホームページ <https://www.sparx.co.jp/> 電話番号：03-6711-9200（受付時間：営業日9：00～17：00）

当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社（以下当社）が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。お申込みにあたっては、販売会社からお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写することを禁じます。

ファンドの関係法人について

●委託会社 **スパークス・アセット・マネジメント株式会社**

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第346号

（加入協会）一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会 日本証券業協会

一般社団法人第二種金融商品取引業協会

信託財産の運用指図、受益権の発行等を行います。

●受託会社 **三井住友信託銀行株式会社**

委託会社の指図に基づく信託財産の管理等を行います。なお、信託事務の一部につき日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社に委託を行います。

●販売会社 **下記一覧参照**

ファンドの受益権の募集・販売の取扱い、一部解約請求の受付、一部解約金・収益分配金・償還金の支払いの取扱い等を行います。

販売会社		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人 金融先物取引 業協会	一般社団法人 日本投資顧問 業協会	一般社団法人 第二種金融商 品取引業協会
大和証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第108号	○	○	○	○

【お問い合わせ先】スパークス・アセット・マネジメント株式会社

ホームページ <https://www.sparx.co.jp/> 電話番号：03-6711-9200（受付時間：営業日9：00～17：00）

当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社（以下当社）が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。お申込みにあたっては、販売会社からお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写することを禁じます。